



東地域振興計画

令和5年2月

【目次】

1 基本方針 . . . 1

2 地域の概要 . . . 2

- (1) 位置・地勢
- (2) 地域資源

3 地域の人口等の状況 . . . 3~6

- (1) 地域内の人口推移
- (2) 年齢層別の人口推移
- (3) 地区別の人口の推移と高齢化率
- (4) 人口異動の理由別比較

4 地域の方々との話し合い（課題・必要なこと） . . . 7~10

- (1) 暮らし
- (2) 賑わい・産業
- (3) 子育て・福祉・医療
- (4) コミュニティ・人

5 地域の特性を踏まえた分析と戦略 . . . 11

6 地域の目指すべき方向性 . . . 12

- (1) 地域振興を図るキーワード
- (2) 交流を図る3つの柱

7 3つの方向性での交流 . . . 13~15

- 交流1 きつねうち温泉・東風の台運動公園エリアの中心エリアでの交流
- 交流2 地域のモノで交流
- 交流3 地域のヒトの交流

8 交流から生まれる東地域の将来 . . . 16

9 長期的視点から今後の東地域を考える . . . 17

- (1) 東庁舎の更新・複合施設化
- (2) 東風の台運動公園の多目的スペースの充実
- (3) 東直売所敷地の利活用
- (4) 三ツ池の利活用
- (5) 街並みの整備

平成 17 年 11 月 7 日に、地理的、歴史的にもつながりが深く、生活圏・経済圏も一体化していた白河市・表郷村・大信村・東村の 4 市村が合併し、新「白河市」が誕生しました。そして合併以降、行財政基盤の強化を図るとともに、産業の振興や地域の均衡ある発展等を重視し、各地域の特徴を活かした地域振興を図ってきました。

しかしながら、人口減少を抑えることは難しく、地域コミュニティをはじめとした多岐にわたる分野での高齢化や後継者不足、さらには若い世代、特に女性の定住促進などが大きな課題として顕在化してきています。中でも表郷地域と大信地域は、人口減少が急速に進んだことにより、今回、過疎地域の指定を受けることとなりました。

人口減少は、非婚化・晩婚化及び出生率の低下などを要因とし、日本全体で進行している現象ですが、大都市圏への人口偏在を背景に、地方においては急速に進行しており、本市においても例外ではなく、何らかの方策を講ずる必要があります。

人口減少は、産業・福祉・医療・教育などあらゆる分野へ影響を及ぼしますが、特に生産年齢人口の減少による経済の停滞や高齢化を支える仕組みの行き詰まりなどへの影響が懸念されます。また、社会資本や生活環境及び自然環境の維持管理、地域社会を支えるコミュニティの存続などが、担い手不足により困難になることが予想されます。

そのため、女性や高齢者の就労支援や活躍の場の創出、人口減少に対応する地域社会の仕組みづくり、効率的・効果的な社会資本整備及び空き家や空き店舗、空地などの既存ストックを活用したまちづくりなど、持続可能な社会の構築に取り組んでいきます。

また一方で、コロナ禍を契機として、疫病や災害等の大都市のリスクが顕在化するとともに、デジタル化の進展等により「転職なき移住」が可能となる中、首都圏等に在住の若い世代の方々が地方への移住に関心を寄せており、今後、地方への人の流れが本格化していくものと期待されます。

とりわけ、本市は、首都圏からの近接性や交通の利便性などの地理的優位性、さらには歴史や文化、自然など、豊かな地域資源を有していることから、そういった固有のアドバンテージや特性を最大限に活かし、多くの方々が住んでみたい、住み続けたいと思えるようなまちづくりを進めていきます。具体的には、「白河市総合計画に掲げる基本目標」を基に、「地域課題の解消を目的としたコミュニティビジネスの支援」、「地域医療・介護体制の充実」、「地域や企業を含めた子育て環境の充実」、「若者や女性の多様な働き方支援」、「デジタル社会における総合的な人材育成」等に入力していきます。特に東地域においては、地域の特色に配慮したまちづくりを進めるとともに、アフターコロナの社会を見据え、高度な情報技術を活用し生活利便性の向上を図りながらも、直接的な人と人とのつながりを重視する「地域の持続的発展に向けた施策」に取り組んでいきます。

(1) 位置・地勢

東地域は白河市の東部に位置し、総面積が 40.38k m²と白河市の約 13.2%の面積を占めています。

北端に流れる阿武隈川と中央を横断する矢武川の両岸に肥沃な水田地帯と火山性土壌の畑地が広く分布し、田畑の面積が 39.1%となっており、米、野菜、果樹の栽培が盛んです。

歴史的には、1741 年から明治までは越後高田藩分領として、釜子陣屋及び浅川陣屋により統治されており、水戸街道の宿場として、人馬の往来や商業活動等も大変盛んでした。

明治 4 年に福島県となった際には 10 村でありましたが、明治 22 年の町村制施行により釜子村、小野田村の 2 村に、昭和 30 年の町村合併促進法により東村になり、平成 17 年の合併により白河市となりました。

「東」地域の名称は、西白河郡の東端に位置し、「光は東方より」の意味を込めてつけられています。

(2) 地域資源

①温泉・運動公園・文化センター・図書館・遊具・屋内プール・キャンプ場が併設



②老舗菓子店 と 味噌・甘酒・日本酒などの発酵文化



③盛んな稲作・果樹栽培 と 東直売所



④伝統文化・歴史・文化財



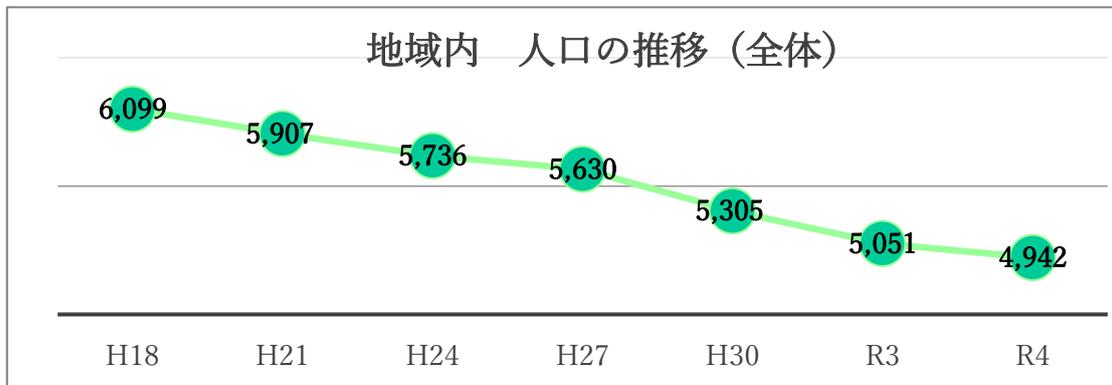
(1) 地域内の人口推移

平成18年に6,099人であった東地域の人口は令和4年には4,942人と16年間で1,157人（約19%）の人口が減少しています。特に、平成27年からは1年で約100人のペースで減少しており、今後さらなる人口減少が懸念されます。

(単位：人)

年		平成18年	平成21年	平成24年	平成27年	平成30年	令和3年	令和4年
人口	男	3,014	2,918	2,845	2,835	2,675	2,549	2,492
	女	3,085	2,989	2,891	2,795	2,630	2,502	2,450
	計	6,099	5,907	5,736	5,630	5,305	5,051	4,942

(4月1日時点の人口 東庁舎調べ)



(2) 年齢層別の人口推移

平成18年から令和4年までの年齢層別の比較では、若い世代を中心に全体的に減少しており、特に0～5歳で59.3%の減、23歳～29歳で42.9%の減と大きく減少しています。

(単位：人)

年代別	H18			R4			計の比較
	男	女	計	男	女	計	
0～5歳	196	185	381	78	77	155	▲59.3%
6～17歳	421	400	821	260	246	506	▲38.4%
18～22歳	185	187	372	140	116	256	▲31.2%
23～29歳	246	225	471	161	108	269	▲42.9%
30～39歳	354	317	671	257	225	482	▲28.2%
40～49歳	382	388	770	331	304	635	▲17.5%
50～59歳	511	442	953	290	290	580	▲39.1%
60～69歳	297	286	583	426	421	847	▲45.3%
70歳以上	422	655	1,077	549	663	1,212	▲12.5%
合計	3,014	3,085	6,099	2,492	2,450	4,942	▲19.0%

(4月1日時点の人口 東庁舎調べ)

(3) 地区別の人口の推移と高齢化率

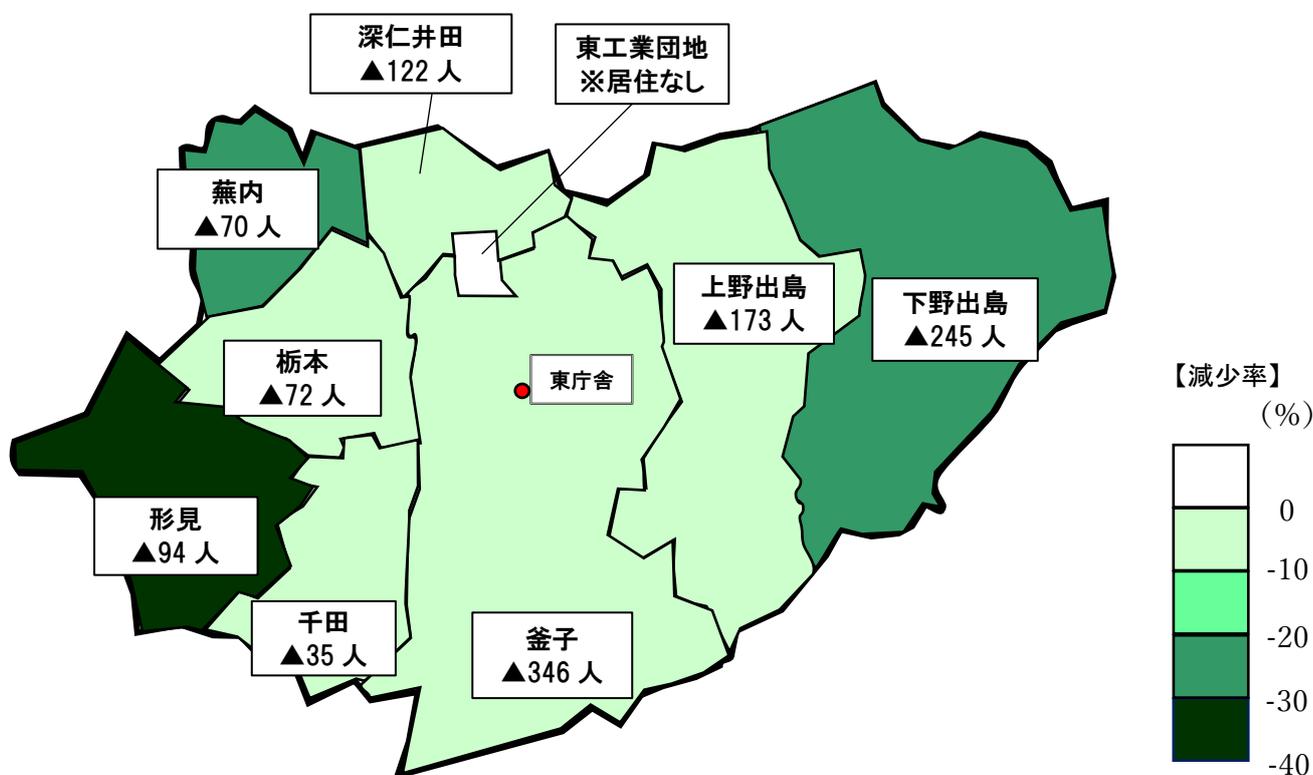
平成18年から令和4年までの地区別人口比較では、形見地区で30.4%の減少と最も大きくなっています。また、令和4年4月1日現在の高齢化率の比較では、蕪内地区で40.7%と非常に高い高齢化率となっており、他の地区においても全体的に高い値となっています。

(単位：人)

地区名	H18	R4	増減数	増減率	地区の高齢化率
形見	309	215	▲94	▲30.4%	37.7%
下野出島	1,005	760	▲245	▲24.4%	38.4%
蕪内	306	236	▲70	▲22.9%	40.7%
上野出島	914	741	▲173	▲18.9%	33.9%
栃本	394	322	▲72	▲18.3%	32.6%
千田	202	167	▲35	▲17.3%	32.9%
釜子	2,095	1,749	▲346	▲16.5%	30.8%
深仁井田	874	752	▲122	▲14.0%	33.5%
合計	6,099	4,942	▲1,157	▲19.0%	33.8%

(4月1日時点の人口 東庁舎調べ)

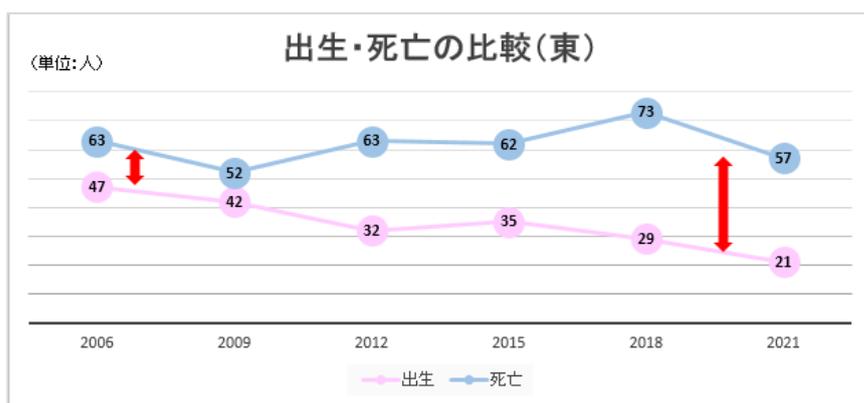
【平成18年⇒令和4年の人口減少の状況】



(4) 人口異動の理由別比較

■自然増減

平成 18 年に 47 人であった出生数は令和 3 年には 21 人となり約 53%の減少と大きな課題となっています。また、死亡者数はやや増加傾向となっていますが、高齢化の進行により今後ますます増加することが予想されます。

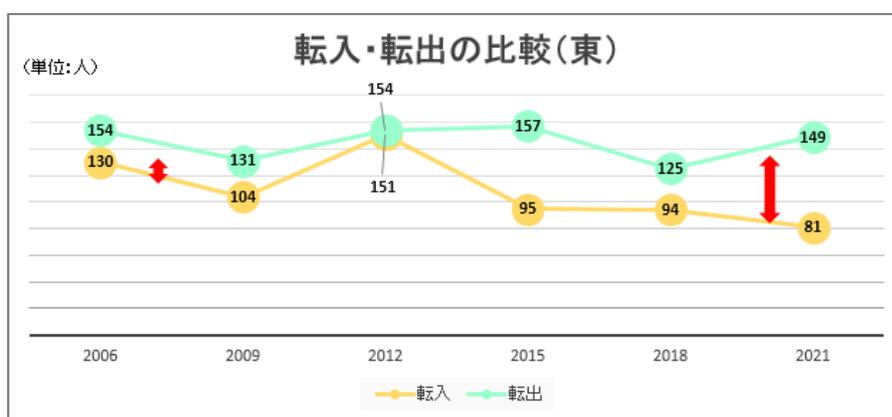


(各年度中の異動者数 東庁舎調べ)

■社会増減

転出者数が横ばいである一方、平成 18 年に 130 人であった転入者数は令和 3 年に 81 人と大きく減少していることから、転出超過の状態が人口減少に大きく影響していると考えられます。転出先は学生世代では首都圏、子育て世代では西郷村への転出が特に多くなっています。

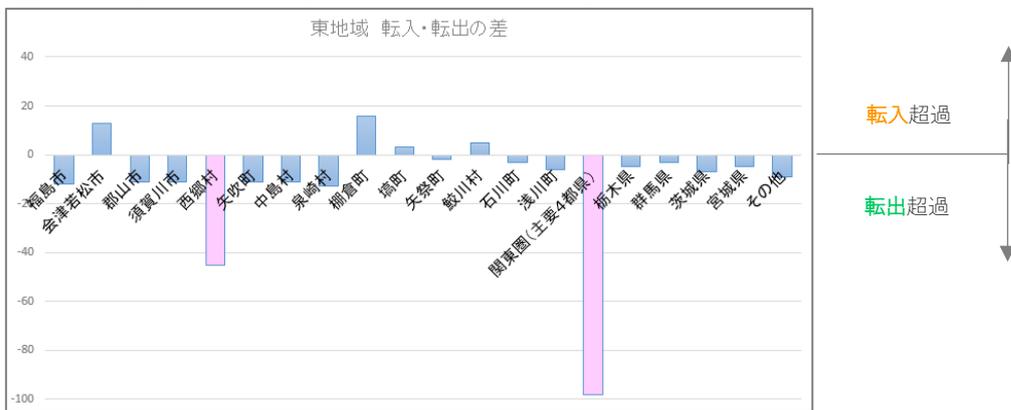
※転出超過・・・転入者に比べ転出者が多くなっている状態



(各年度中の異動者数 東庁舎調べ)

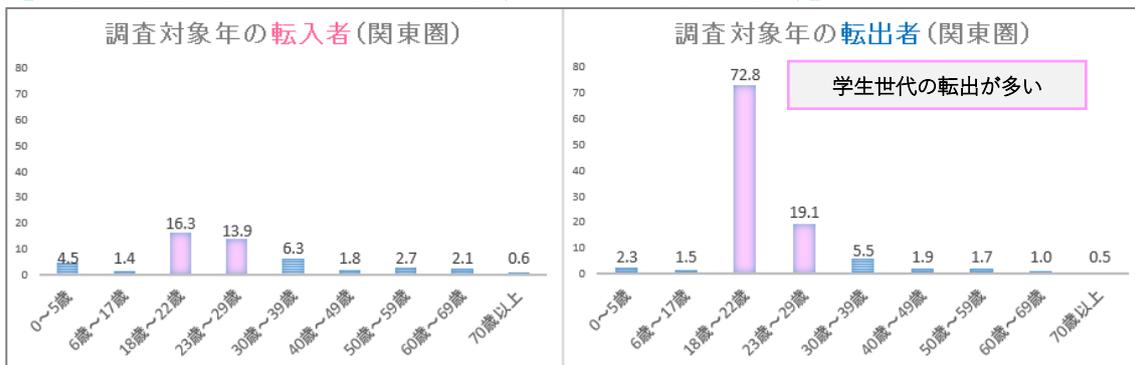
【参考 転入・転出者の詳細データ】

【参考 近隣自治体・首都圏との転入・転出の差】



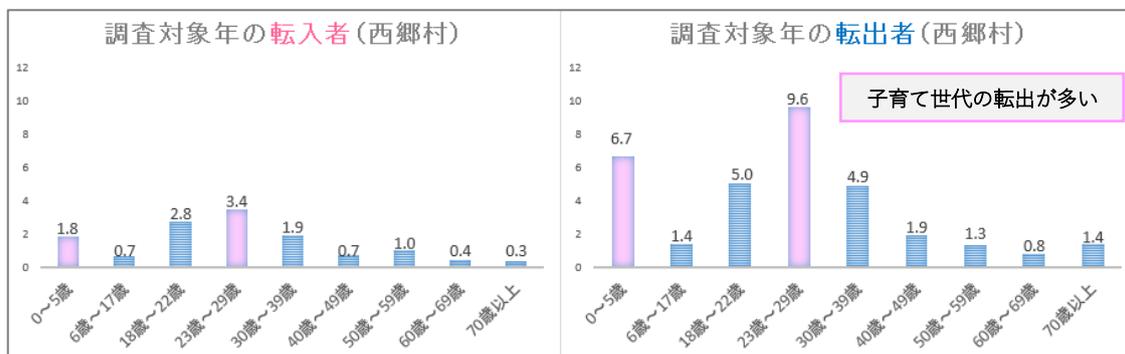
※H18.H21.H24.H27.H30.R3の転入・転出者の状況をまとめたもの

【参考 関東圏へ転出している方の年齢（表郷地域・大信地域含む）】



数値は年齢層の1歳あたりが1年間に転出する数

【参考 西郷村へ転出している方の年齢（表郷地域・大信地域含む）】



数値は年齢層の1歳あたりが1年間に転出する数

地域振興を図る上で、最も重要となる地域の声を聞くため、地域の方々（東地域活性化協議会）と、地域の課題や必要なことについて話し合いを行った結果、以下の意見が交わされました。

(1) 暮らし

①空き家の増加への対応

人口減少に伴い、空き家の増加が懸念されます。空き家の増加は防犯、景観、防災等暮らしへの影響に加え、地域の賑わいも衰退させる要因となります。

空き家を利活用することで、空き家の解消だけでなく、地域の賑わいを生むような事例も増えているため、さまざまな方向で空き家を活用するための施策が必要となります。

また、有効な施策があったとしても対象者にどのように知らせるかが重要であることから、地域と行政が連携し、空き家所有者と利用者の両方をサポートしていくことで利用が促進されると考えます。

②交通システムの充実

地域内移動支援や乗合タクシー実証実験等の交通支援制度を実施していますが、依然として移動に不便を感じている高齢者が存在しています。目的地の設定や利用できる日については、随時見直しを行い、今後さらに増加すると思われる交通弱者への対応を図ることが必要となります。

また、地域の方が運転手となり、交通弱者を支えるという仕組みができれば理想的です。

③災害時の体制づくり、危険箇所の対応、暮らしやすさのための環境衛生

災害時の迅速な対応のため、地域と連携した防災体制と担い手が減っている消防団員の確保が課題となります。

また、見えづらい交差点、草木で視界が遮られている道など事故につながる可能性がある箇所の早めの対応や、衛生的で暮らしやすい環境を整備するために地域住民と連携した対策が必要となります。

④利用されていない公園の整理

農村公園は特に利用されていないものが多く、管理の問題や環境・景観上の視点から整理が必要です。

(2) 賑わい・産業

①きつねうち温泉・東風の台運動公園エリアの充実

賑わいを創出する上では、きつねうち温泉・東風の台運動公園エリアが核となります。キャンプブームが到来していることから、キャンプ場とその周辺スペースの充実を図ることや空いているスペースを活用して新たなサービスを提供していくことが必要となります。

また、温泉とキャンプを両方楽しめること、子どもが楽しめる遊具があることなどを、伝えたいターゲットに応じた手段で効果的に PR していくことでさらに賑わいが創出されると考えます。

②賑わい創出イベントの開催

多世代交流センター前の芝生広場はイベントで利用しやすいスペースとなっているため、イベントでの活用を推進することで、温泉、遊具、東文化センターとの相乗効果が生まれることが期待されます。

また、上記イベントに加え、地域の若者が主催するイベント、伝統行事、直売所を活用したイベント等を定期的で開催することで、東地域に来れば何か楽しいことが行われているというイメージを持ってもらうことが重要です。

③施設への案内・まちなみ整備

現在は案内板の整備が不十分で場所が分かりづらく、地域資源を活かしきれていないことから案内表示による誘導が必要です。また、地域のイメージ向上や来訪者に歩いてみたいと思ってもらうために、統一感のある街並みが整備できるとよいと考えます。

④後継者不足への対応

次世代を担う人材が不足しているため、後継者になり得る人材の育成・発掘が重要となります。そのためには、事業承継に対する費用支援や農業関係者と連携し体験等を通じて農業人材を呼び込む施策が必要です。

また、後継者不足により地域にある店舗の減少が懸念されるため、空き家を利用した新たな事業支援も必要です。

(3) 子育て・福祉・医療

①子育て支援

東地域では保育園・幼稚園以外に子育て支援の場がないことから、子育てする親同士が気軽に話すことができ、育児相談ができる場所を提供することにより子育て環境が充実すると考えます。

また、出産時の支援金、教育費の支援、スクールバスを含めた通学の支援を行うことにより子育ての支援につながるのではないかと考えます。

②地域と交流する教育

現代社会ではデジタル教育も非常に重要ですが、デジタルでは培えない部分については、地域の方等との交流の中で心の豊かさを醸成するような教育も重要です。

例えば、地域の方からの歴史・伝統文化の伝承、部活動を通じた大人の活動団体との交流、小中学校間の交流、大学を含めた他地域の学生との交流などを図り、心の豊かさの醸成や地域のつながりを深めていくことも必要と考えます。

③いきいきした高齢者の活動

東地域の高齢者サロンは現在5か所で開催されていますが開催場所を増やし、さらに目的を持った活動を行っていくことでサロンの充実を図る必要があると考えます。また、高齢者の培った知識と経験を活かし働く場所等を創出することで、今後高齢化が進む中で困っている高齢者を高齢者が助ける共助の体制を構築するなど高齢者がいきいきと生活していける仕組みづくりが必要です。

④医療機関の確保

全国的な医師不足により非常に難しい問題ですが、地域医療を維持するためには、新規に開設する場合の支援や既存の施設を承継する場合の支援等を充実させ、地域医療を維持していく努力を継続的に行っていく必要があります。

(4) 人・コミュニティ

①地域コミュニティの維持・体制づくり

地域コミュニティが薄れていく傾向にありますが、地域コミュニティを維持することは災害時の助け合い、地域環境維持のための協働活動、地域の行事活動等を行っていく上で非常に重要です。

消防団についても、団員の確保が困難となっており、活動体制に不安を抱えています。

このことから、地域イベントを活性化し地域の方同士の交流を図ること、町内会、消防団の活動に対する支援、地域のリーダー育成などを通じコミュニティを強化していくことが重要となります。

さらに、災害等の緊急時に備え、町内会と消防団とが連携して危険箇所の情報共有や、一人暮らしの高齢者の把握など、役割分担等を整理し迅速に対応できるような体制づくりも重要となります。

②地域への愛着を醸成し、若い人に住み続けてもらう

地域の若者が地元に住み続けたい、外へ出て戻りたいと思ってもらうことが地域内の人口減少の抑制やコミュニティ維持をしていく上で重要となります。

そのためには、地域の子ども達が成長する過程で、地域に住んでいて楽しく幸せだった経験や地域の大人と活動する中で地域に貢献したいと思う気持ちを醸成することが必要となります。

例えば、地域のイベントで楽しかった思い出をつくることや職場体験を通じ、地域の大人とのふれあいだけでなく、仕事の内容や地域産業を知ってもらうことなど地域の方々との交流を図る中で地域への愛着を醸成していくことが必要です。

③移住を希望する方へのサポート体制

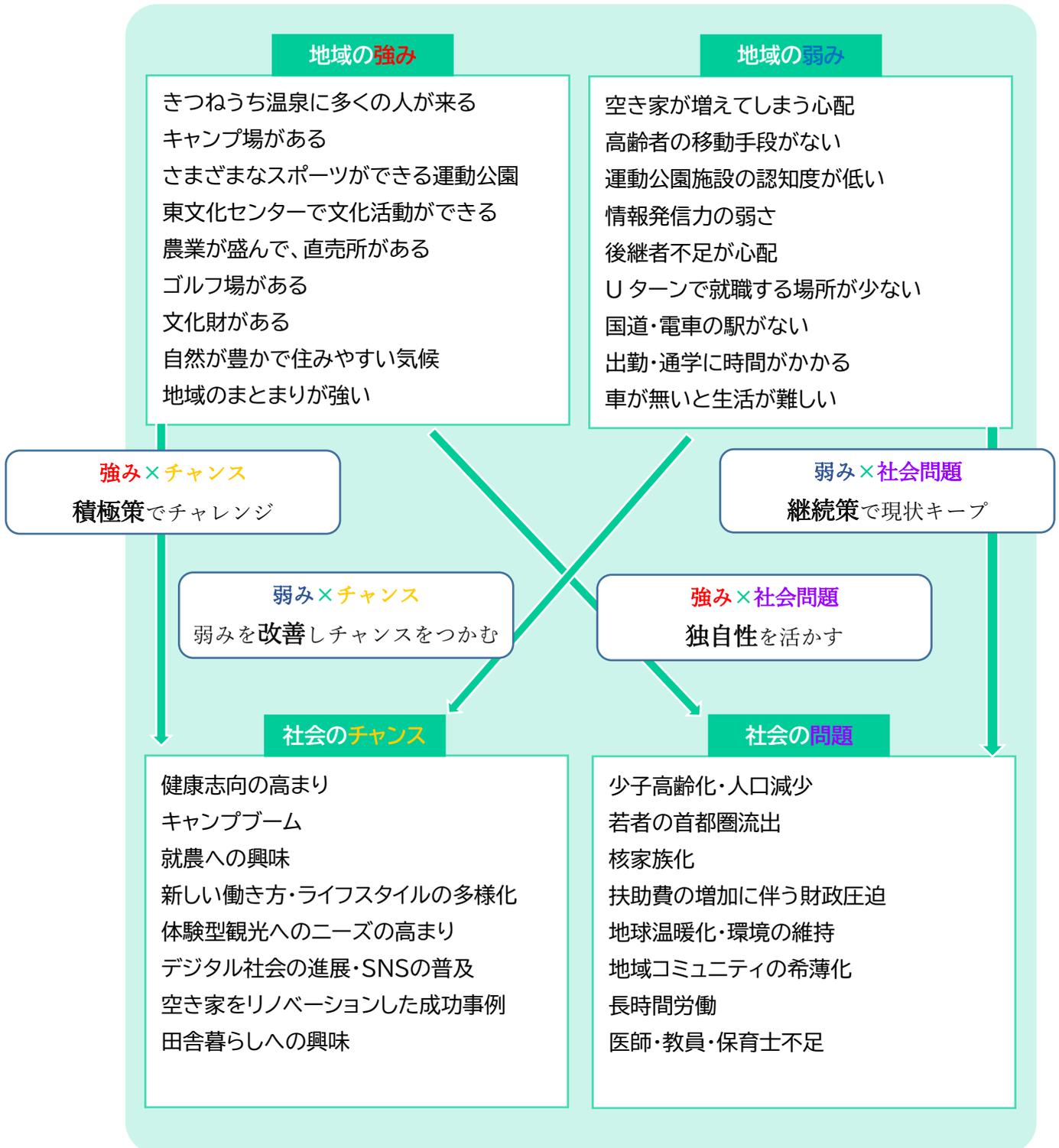
人口を増やす対策としては移住促進も必要となります。

移住に関しては、さまざまな支援制度がありますが、制度を利用するためにはそれぞれの窓口で相談をしなければなりません。また、移住につながったとしても、地域で生活していく上での知識や困りごとを相談できる体制が必要です。

安心して移住を検討できる環境をつくるために、住む家、利用できる支援制度、移住後の生活に関することなどを総合的に相談できる専用窓口が必要と考えます。

地域の特性を踏まえた分析と戦略

「東地域が持つ強み・弱み」と「社会で起きているチャンス・問題」から、今後東地域で推進すべき施策とその方向性について考察しました。



(1) 地域振興を図るキーワード

地域の方々との話し合いの中で、地域振興を図る上で人同士の「交流」が非常に重要となるという意見が多く出たことから、東地域の目指すべき方向性として、「交流」をキーワードとし、地域外の方との交流、地域内の方同士の交流を促進し地域振興を図るものとします。

地域外の方との交流に関しては、体験や娯楽を通じ、一度、東地域に来てもらうことで、地域の賑わい創出や最終的には移住につながることを目的とします。

また、地域内の方同士の交流では、地域のつながりを強化することや若い世代が地域に住んでいて楽しいと感じられる経験をすることで、コミュニティの強化、地域に定住したいと思ってもらうことを目的とします。



(2) 交流を図る3つの柱

① きつねうち温泉・東風の台運動公園の中心エリアでの交流

温泉・運動施設・屋内プール・文化センター・遊具・図書館・キャンプ場等が同じエリア内にあるという強みを最大限に活かし地域内外の交流を図ります。

② 東地域のモノで交流

稲作・果樹栽培が盛んである東地域の農業の体験、空き家の利活用、歴史物等の観光資源を活かす取り組みにより、特に地域外の方との交流を図ります。

③ 東地域のヒトの交流

子どもから高齢者まで、世代を超えた交流につながる取り組みにより、地域内の交流を促進します。

交流1 きつねうち温泉・東風の台運動公園の中心エリアでの交流

① 既存スペースで新たな交流

エリア内にはまだ活用できる可能性があるスペースが残っていることから、同エリア内にあるさまざまな施設と連動した新たなサービスの提供を推進します。

例えば、「温室」や「東図書館の2階」で遊具、芝生広場、東文化センターを活用した子育て広場や若い世代のコミュニティスペース、温泉と連携したワークスペースや娯楽スペースなど新たなサービス利用に向け準備を進めます。

② イベント開催・誘客による交流

イベント開催に適したスペースが複数あるため、こうしたスペースを活用したイベントの実施による誘客により、温泉・東文化センター・運動施設等の施設との相乗効果も生まれることから、積極的なイベントの開催を推進します。

市が主催するサンライズひがしフェスティバルや郷里マラソンなどの継続的な開催、市以外が開催する音楽フェスなどの支援に加え、多世代交流センター前の芝生広場を活かした屋外でのクラシックコンサートやマルシェの開催など新たなイベントについても推進します。

また、宿泊施設と運動施設、東文化センターが併設されている強みを活かし、地域外の学生を対象とした合宿誘致に対する支援を行うことにより交流促進を図ります。

③ 施設設備の充実・PRによる交流

同じエリア内でさまざまな活動ができるという強みを活かしたPRを実施していきます。

例えば「温泉とキャンプ」、「文化センターと屋外イベント」、「遊具で遊んで読書」、「運動して宿泊」など、施設同士を連動させることにより知名度アップとなる手法を用い、広報誌、SNS、ホームページ、チラシなどで、お知らせしたいターゲットに対して効果的に伝わる手段を活用していきます。

また、キャンプ場については、近年のキャンプブームの波に乗れるよう、利用者の興味をそそるような整備を進めつつ、施設を継続的に利用できるよう東体育館やグラウンドの長寿命化をメインとした改修を行っていきます。

■関係する主な事業（予算を伴う事業）

東風の台運動公園体育施設等改修事業	しらかわ郷里マラソン開催事業
さとやま音楽会開催事業	サンライズひがしフェスティバル開催事業
地域づくり活性化支援事業	

① 暮らし・農業体験による交流

地方移住や就農への関心が高まっている中で、稲作・果樹栽培が盛んであるという強みを活かし、田舎住まいや農業体験による交流を図ります。

住まいについては、既存のお試し住宅に加え、農家民泊を推進し、農家住宅の暮らしを体験してもらいます。

農業体験については、住まいの体験に合わせた農業体験に加え、農作物のオーナー制度を推進し農業への興味を促すなど、住まいと農業を組み合わせた体験を推進することで、田舎暮らしや東地域の農作物の良さを実感してもらいます。

また、農業へ興味ある方への呼び込みとして、インターネットやパンフレットのほか、就農イベントへの出展により重点的なPRを行います。

② 空き家の活用による交流

これまで空き家の利活用の支援に関しては、空き家に住むことを目的とした改修に限定していましたが、事業を目的とした空き家の改修に対しても新たに支援を行うことで、空き家の解消に加え地域の賑わい創出を目指します。

また、事業開設に必要な設備投資についても創業支援を行い、ハードとソフト両面からのサポートにより空き家を効果的に活用した事業展開を推進します。

③ 地域の農作物を活かした交流

東直売所等を活用し、地域で収穫した農作物を活かしたイベントを開催することにより、東地域の農作物のおいしさを知ってもらうとともに、地域の賑わいを創出します。

④ 地域の観光資源による交流

地域の観光資源に関して案内表示の整備が不十分なために場所が分かりづらいという弱みを改善するため、地域のサイン表示を整備し円滑な人の流れをつくります。

また、地域の観光資源を活用し、地域外の方との交流を図ります。

■関係する主な事業（予算を伴う事業）

移住・定住推進事業	農家民泊導入支援事業
起業・創業支援事業	空き家等活用事業
自然の恵み（農作物）オーナー制導入支援事業	サイン表示設置事業
農業人材確保・育成事業	

① 子ども・子育て世代の交流

東地域には子育て世代が交流する場が無いことから、子育てに関する相談・子ども同士の交流・情報交換ができる場の整備を進め、子育てが安心して行えるよう子育て世代の交流を促進します。

② 交通の充実による交流

地域内の移動に関する助成や乗合タクシー実証実験により移動支援に関する施策は実施していますが、依然として交通手段に不便を感じ、高齢者サロン等さまざまな活動への参加が制限されてしまっている方がいます。これまでの実証実験や交通支援策に関するアンケート結果を踏まえ新たな交通システムの構築に努めます。

③ 地域の子どもと大人の交流

地域の子ども達が地域活動や行事等を通じ交流を図ることにより、地域のことを知り、参加し、楽しみ、地域への愛着を醸成し、住み続けたい、貢献したいという気持ちを育むため、学校や各種団体を通じ子ども達に呼びかけを行っていきます。

また、職業体験を通じ、地域産業とコラボした商品開発をすることも1つの手段であると考えられるため、地域の産業と学生のマッチングを推進します。

④ 地域内の話し合い等の促進による交流

地域の巡回・点検・状況把握、地域の方同士の話し合いの促進、課題を行政につなげる人材として集落支援員の配置の準備を進め、地域内交流の促進によるコミュニティ強化を図るとともに、地域の課題解決につなげます。

⑤ 地域イベントによる交流

地域が主体となるイベント等を支援することにより地域の主体性を促進し、賑わい創出に加え地域内外の交流促進を図ります。また、子ども達や若者が参加することにより、若い世代の地域への愛着醸成につなげます。

■関係する主な事業（予算を伴う事業）

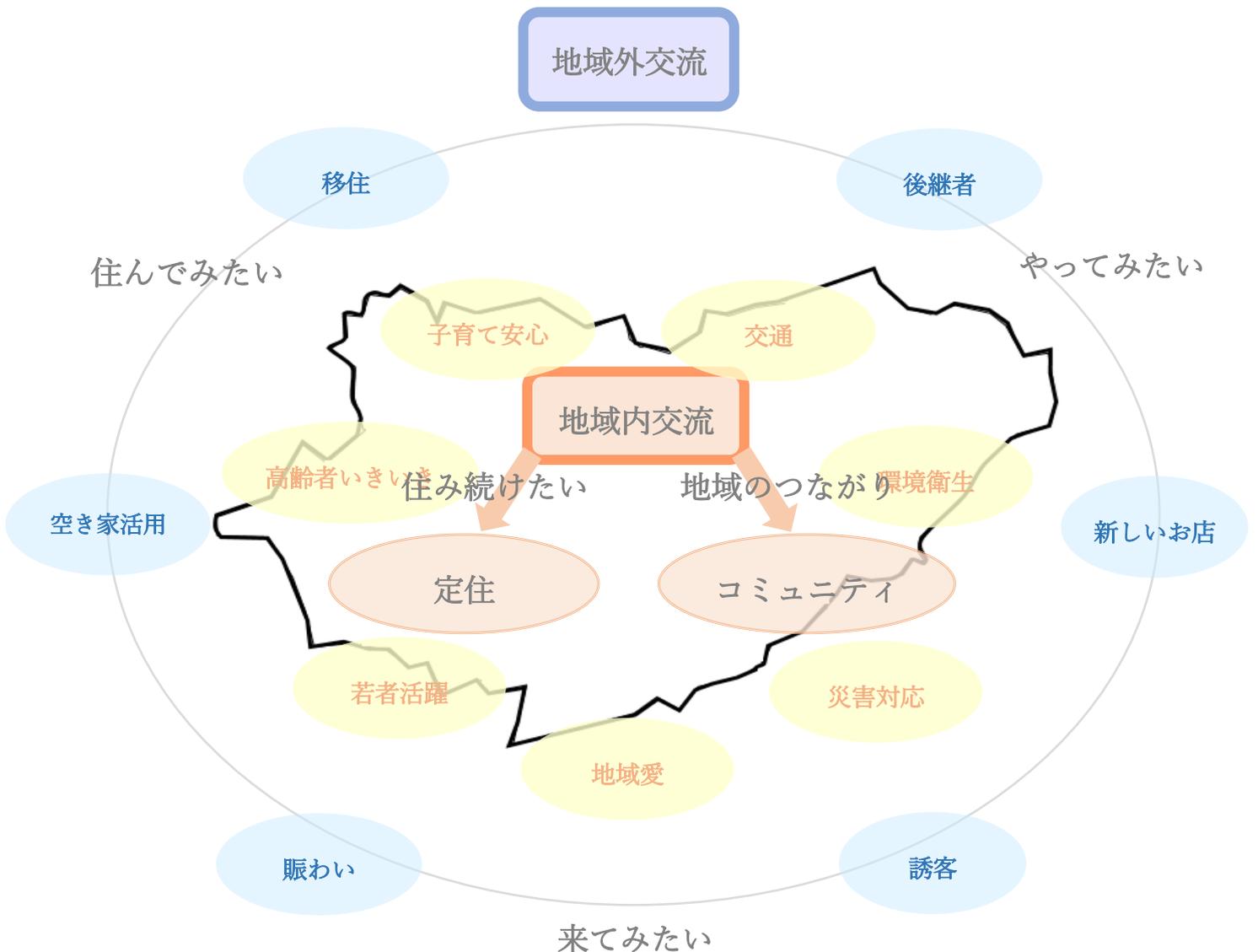
地域子育て支援拠点事業（出張ひろば）	集落支援事業
商品開発・販路拡大推進事業	新交通システム導入事業
地域づくり活性化支援事業	

交流から生まれる東地域の将来

地域内外の交流促進により地域の課題解決につなげていきます。

地域内交流では、地域のつながりを深めコミュニティ強化を図ることにより、災害等の緊急時の対応、地域の環境づくり、超高齢化社会に向けた支え合いの体制など、住民同士での暮らしやすい地域づくりができます。また、子ども達や若者が地域に住んでいて楽しく幸せな経験をすることで、地域に住み続けたい、地域に貢献したいという意識を持っていただくことで定住促進につなげていきます。

地域外交流では、体験や娯楽を通じ地域に足を運んでもらうことで、地域の賑わいが生まれます。また、田舎暮らしに興味がある方が増えている中で、行ったことが無い場所よりも、一度でも行ったことがある場所が圧倒的に優位であると考えられることから、一度来て東地域の良さを知っていただくことで移住促進につなげていきます。移住につながれば、後継者不足、空き家の利活用など、地域課題の解消も期待されます。



長期的視点から今後の東地域を考える

現状の課題や地域との話し合いの中から、長期的視点で地域に必要となることについても検討を行っていきます。検討に当たっては、地域の方の意見・ニーズを十分に踏まえ地域と共に進めていきます。

(1) 東庁舎の更新・複合施設化

東庁舎については老朽化が進行していることから、「白河市公共施設個別施設計画」(令和2年3月策定)において、「東庁舎は老朽化が進んでいる。今後は周辺施設の改修時期に合わせて複合化等の検討が必要である。」とされています。

東庁舎の更新を検討するとともに、庁舎機能・公民館機能・保健センター機能の複合化や交流スペース、民間活用スペース等新たな機能についても検討していきます。

(2) 東風の台運動公園の多目的スペースの充実

東地域においては、きつねうち温泉・東風の台運動公園のエリアを最大限に活かしていくことが効果的な施策となります。

キャンプ場周辺の多目的スペースについては、まだ活用が可能なスペースがあることから新たなサービス展開が可能です。例えば、キャンプ場や遊具を目的に来訪される方向けのドッグランの整備、温泉が併設されている強みを活かし快適なキャンプを求める方向けのグランピング設備の整備など施設の有効性を高める比較的大規模なチャレンジについても検討していく必要があります。

(3) 東直売所敷地の利活用

東直売所は利便性の良い県道に面しており、交通量も多いことから利用価値が高い立地となっています。敷地内にはあまり使われていないスペースが残っていることから、空きスペースの効果的な利活用について検討を行います。

(4) 三ツ池の利活用

三ツ池(上池)については、草木が生い茂っており周囲の環境を害していたことから、令和4年度に環境改善のため草木を除去し平地にする整備を進めています。整備した後の活用方法は決まっていないため、さまざまな用途を候補に活用を検討していきます。

(5) 街並みの整備

東地域の中心商店街については、商店はあるものの歩行者が少なく、賑わいがあまり感じられないことから、看板、暖簾、街路灯等、統一感を持った街並みを整備することで、来訪者が歩いてみたいと思う街並みの形成について検討していきます。



東地域振興計画

令和5年2月

白河市 東庁舎

東地域活性化協議会